

我が校の強み弱み分析・評価シート

大津市立志賀中学校

○調査目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【結果について】

《概要》

今年度の調査は、「国語」・「数学」・「理科」の3教科で実施されました。特に「理科」についてはいずれの項目においても強みとなって表れましたが、「国語に関する意識・学習」と「数学」の学力に課題が見られました。生徒質問紙調査では「ICTを活用した学習状況」や「主体的な学習の調整」など多くの領域が強みとして表れましたが、「学習習慣」の項目に大きな課題が見られました。

《強み・弱み》

国語では、【書くこと】の領域の中でも「集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるか」・「自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるか」といった「**自分の立場**」を視点とした問題で強みが表れましたが、「読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整えることができるか」・「読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるか」といった「**相手の立場**」を視点とした問題に弱みが見られました。また、「事象や行為を表す語彙について理解しているか」をみる【我が国の言語文化に関する事項】にも弱みが見られました。

数学では、「グラフから必要な情報を読み取ることができるか」・「証明された事柄を基にして、新たに分かる辺や角についての関係を見いだすことができるか」といった「**情報を読み取り、新たな関係を見出す**」問題に強みが見られました。一方で、「目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるか」・「問題解決の方法を数学的に説明することができるか」といった「**自分の考えを説明する**」問題には無回答も多く、大きな弱みとして表れました。

理科では、特に【エネルギー】・【地球】の領域や、「知識・技能」を確かめる項目で強みが見られました。「思考・判断・表現」に関する項目では「**自分の考えを説明する**」問題に無回答があり、ここでも記述式の問題形式を苦手とする傾向が見られました。

【学習に対する興味・関心】については、多くの生徒が「教科の勉強は大切だ」・「将来、社会に出たときに役に立つ」と考えています。しかしながら、「学習に対する興味・関心」の項目については課題が見られました。生徒が主体的、意欲的に学習に取り組むことができるよう、日々の取り組みを積み重ねる必要があります。

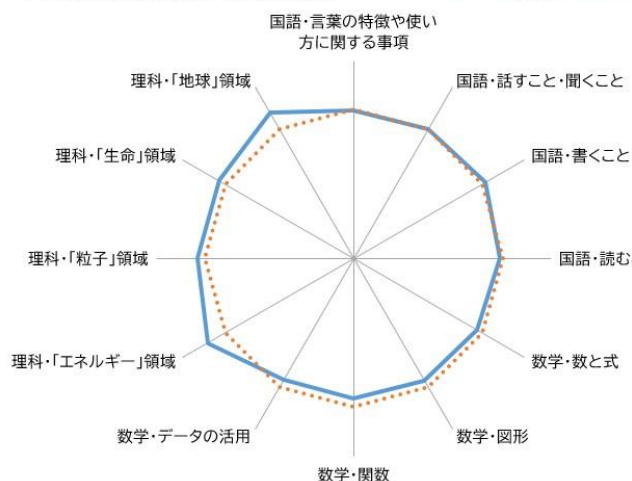
生徒質問紙では、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」・「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」といった【規範意識】に関する質問で、強い肯定を示す回答が多く見られました。また、「自分には、よいところがあると思いますか」・「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」などの【自己有用感】に関する質問においても肯定的な回答が多くみられました。一方で、「学校の授業時間以外(平日)に、どれくらいの時間、勉強をしますか」・「学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」といった【学習習慣】に関する事項の改善に向けた取り組みが必要です。

【強み・弱みレーダーチャート】

※本校の傾向を見るためのものであり、学校ごとに基準が異なるため、他校と比較できるものではありません。

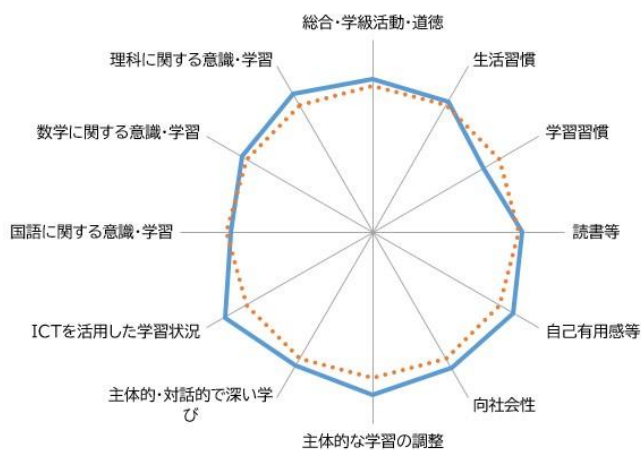
学習指導要領の内容・領域の傾向

— 志賀中 — 中央値



生徒質問紙調査の傾向

— 志賀中 — 中央値



※グラフは全国平均正答率と本校平均正答率のポイント差に基づいて作成しました。

※破線はポイント差の中央値を表しています。破線より外側の場合は強み(成果が現れている項目)、内側の場合は弱み(改善を検討する項目)と捉えることができます。

【指導の充実に向けて】

今年度の結果を受け、志賀中学校のこれまでの取り組み・校内研究と関連付けながら、次の取り組みを進めていきます。

- ① 生徒の行動目標『あいのしが』(固いさつ・いのちのびのび・くみせつ・つ)の推進。【望ましい生活習慣・学習習慣の育成】
- ② 学級活動や学校行事、生徒会活動を通して、豊かな人間関係の構築を目指す。【自己有用感の向上、互恵的な集団づくり】
- ③ 4人グループの活動を軸に、「生徒のつながり・対話」を育む。【学びに向かう力の育成、言語活動の充実】
- ④ タブレットを有効に活用し、「生徒の学びの可能性」を広げる。【ICTを活用した情報・データ活用能力の育成】
- ⑤ 授業の課題設定を工夫し、「主体的・対話的で深い学び」を生む。【協同的な学びのある授業づくり】